

## 5 居住

### (18) 居住年数

居住年数の分布を見ると、日本の居住年数は10年以上20年未満が23.7%、3年未満が14.6%、30年以上が13.6%となっており、宮城県の居住年数は10年以上20年未満が23.7%、3年未満が19.2%、5年以上10年未満が11.9%となっている。現在の市町村については、3年未満が22.2%、10年以上20年未満が19.2%、5年以上10年未満が13.4%となっている。

問18 あなたは、通算して日本にどのくらい住んでいますか。また、宮城県、現在住んでいる市町村には、通算して何年間住んでいますか

表18 居住年数

	日本		宮城県		現在住んでいる市町村	
	N	%	N	%	N	%
6ヶ月未満	21	5.3%	37	9.3%	44	11.1%
1年未満	25	6.3%	32	8.1%	43	10.9%
3年未満	58	14.6%	76	19.2%	88	22.2%
3～5年	40	10.1%	38	9.6%	37	9.3%
5～10年	46	11.6%	47	11.9%	53	13.4%
10～20年	94	23.7%	94	23.7%	76	19.2%
20～30年	39	9.8%	31	7.8%	25	6.3%
30年以上	54	13.6%	28	7.1%	19	4.8%
無回答	19	4.8%	13	3.3%	11	2.8%
計	396	100%	396	100%	396	100%

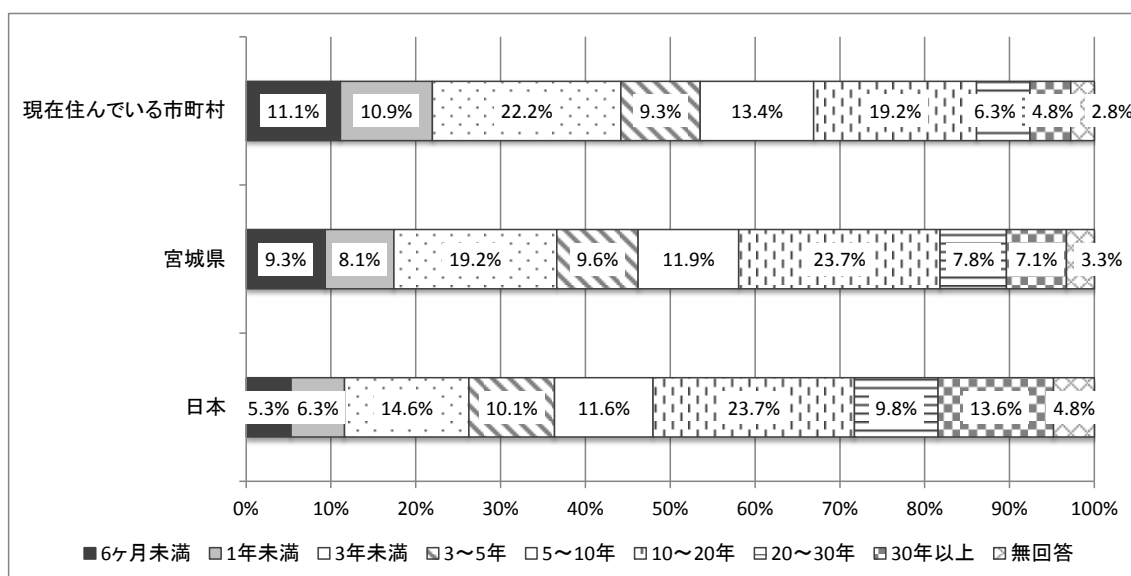


図18 居住年数

居住地域別の各市町村への居住年数の分布を見ると、仙台市、栗原地域、気仙沼地域では20%以下が1年未満の居住年数となっており、中でも栗原地域と気仙沼地域では3年未満の居住年数が50%を超えている。一方、仙南地域、登米地域、石巻地域では10年以上の居住年数が50%以上を占めており、仙南地域、石巻地域では20年以上の居住年数も20%以上となっている。

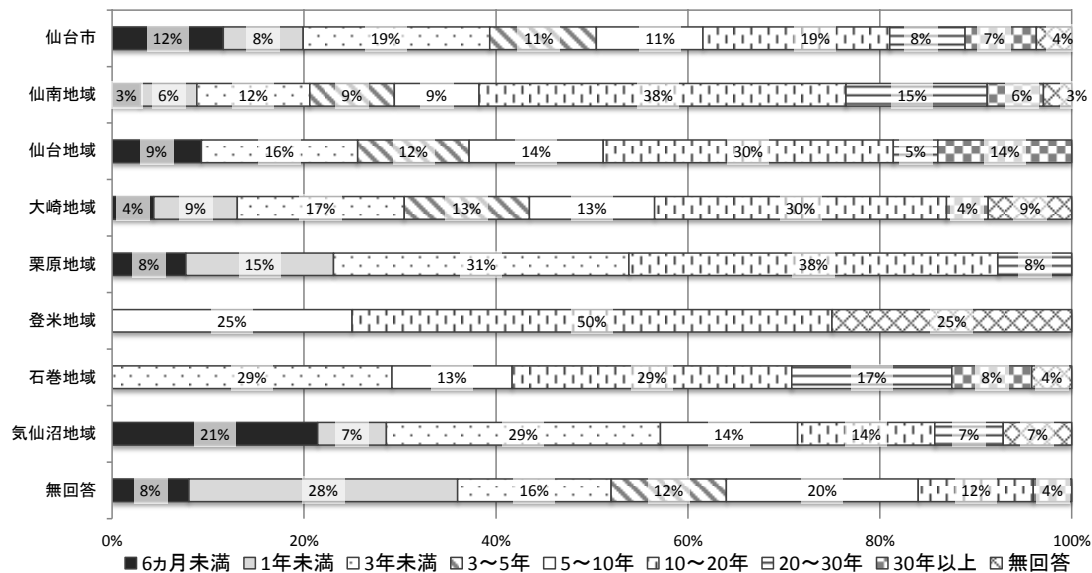


図18-2 居住地域別市町村居住年数の分布(N=396)

**(19) 以前の居住地**

現在の住所に住む以前の居住地を見ると、宮城県以外の都道府県に住んでいた割合が25.0%と最も多く、次いで宮城県内の他の市町村が23.5%、現在住んでいる市町村以外に住んだことはないと答えた人が21.2%となっている。

問 19 あなたは現在住んでいる市町村の前はどこに住んでいましたか。

表 19 以前の居住地

	N	%
宮城県内の他の市町村	93	23.5%
宮城県以外の都道府県	99	25.0%
日本以外の国・地域	77	19.4%
現在お住まいの市町村以外に住んだことはない	84	21.2%
無回答	43	10.9%
計	396	100%

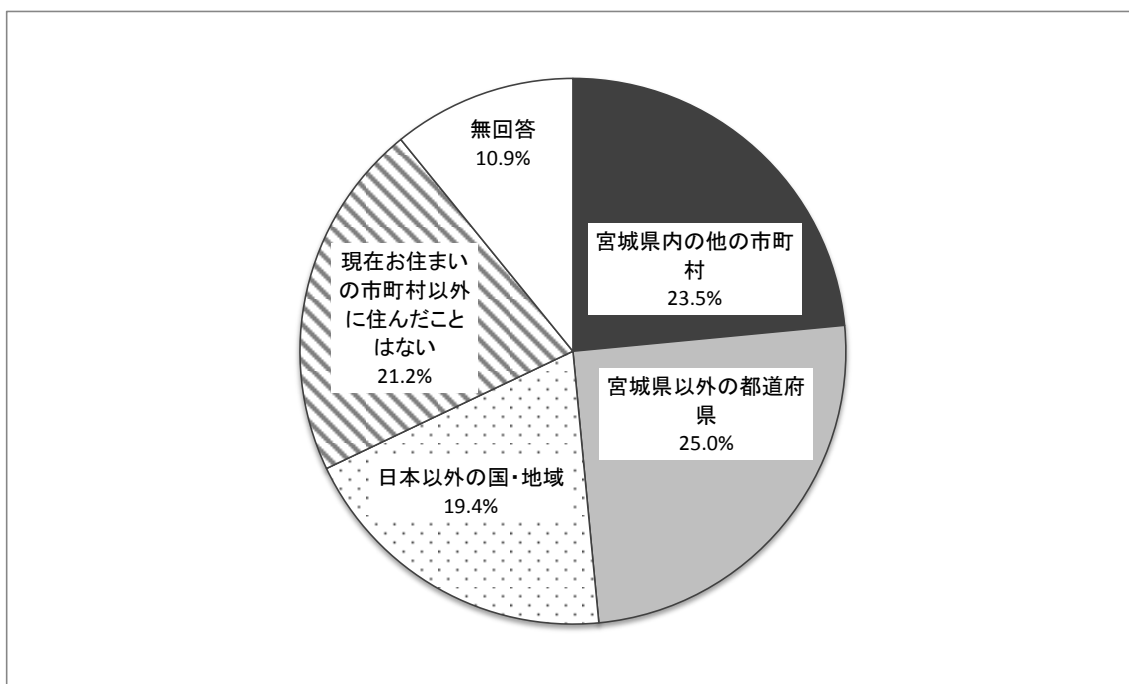


図 19 以前の居住地

居住地地域別の以前の居住地の分布を見ると、宮城県内の他の市町村に居住していた割合は栗原地域が最も高く 54%となっている。他の都道府県に居住していた割合は登米地域で 50%となる。他の国・地域に居住していた割合は仙南地域、大崎地域で 30%以上となっている。

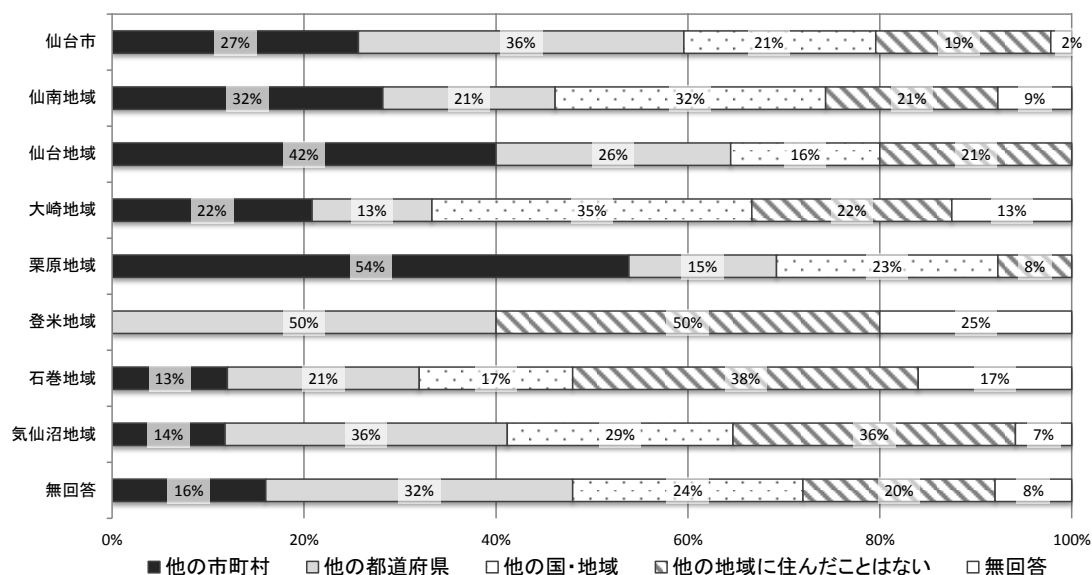


図19-2 居住地地域別以前の居住地の分布 (N=396)

在留資格別の以前の居住地の分布を見ると、宮城県内の他の市町村に居住していた割合が最も高いのは定住者で 50%となっている。他の都道府県に居住していたのは特別永住者が最も高く 53%となる。他の国・地域に居住していた割合は技術・人文知識・国際業務の 43%が最も高い。

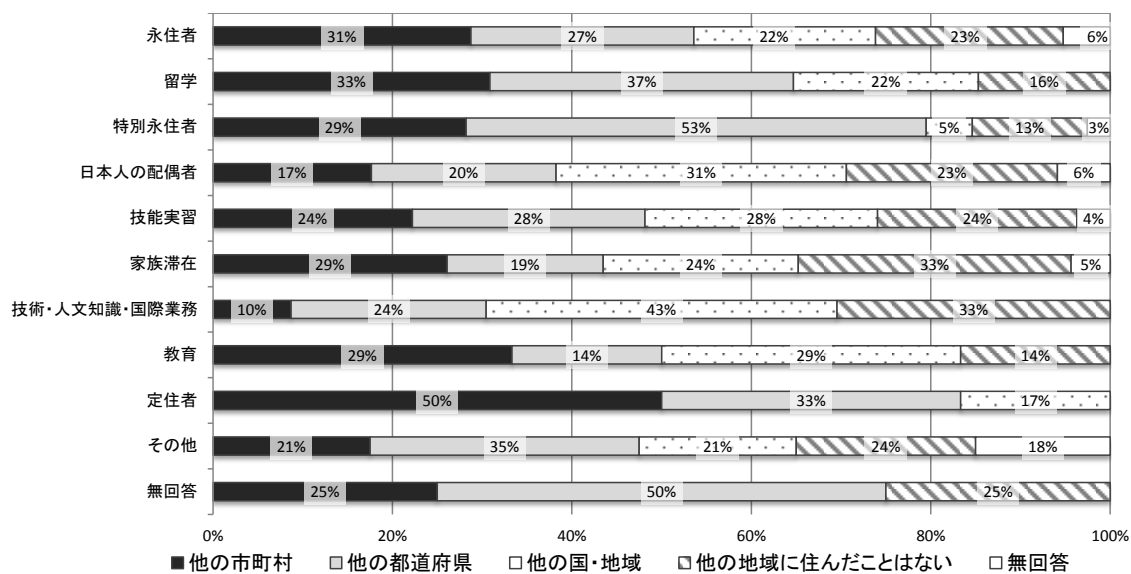


図19-3 在留資格別以前の居住地の分布 (N=396)

## 6 医療・福祉

### (20) 保健・医療・介護サービスの利用経験

保健・医療・介護サービスの利用経験の分布について見ると、基礎健康診断は最も多くの人に利用されており、47.5%が利用経験がある。次いで、がん検診が 22.0%、時間外診療が 17.7%に利用されている。

問 20 以下のような保健・医療・介護サービスを利用したことがありますか（複数回答）

表 20 保健・医療・介護サービスの利用経験

	N	%
県または市町村の基礎健康診断	188	47.5%
県または市町村の各種がん検診	87	22.0%
休日・時間外の診療機関	70	17.7%
県または市町村の健康相談	28	7.1%
外国語で診療可能な医療機関	25	6.3%
介護保険サービス	16	4.0%
県または市町村の心の健康相談	2	0.5%
無回答	116	29.3%
計	396	100%

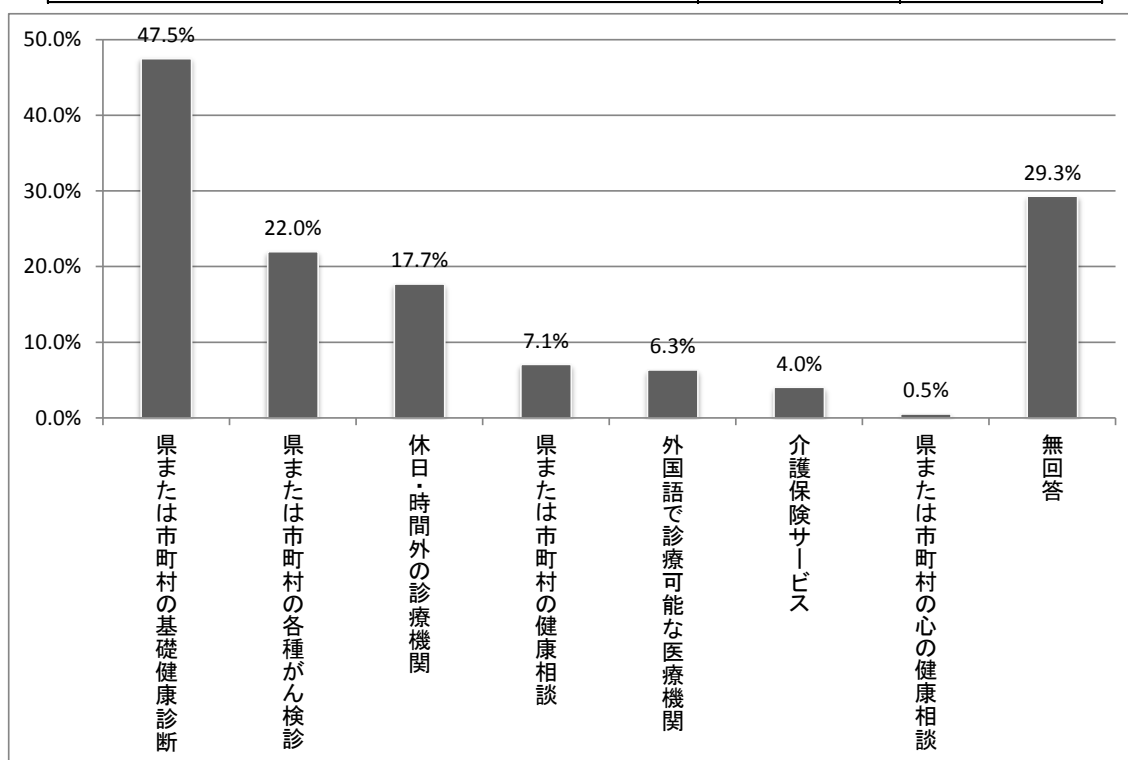


図 20 保健・医療・介護サービスの利用経験

## (21) 病院での困った経験

病院で困った経験についての分布を見ると、50%以上の方が「とくに困っていることはない」と回答している一方、「日本語の書類・案内が理解できない」が16.2%、「医師や看護師と言葉が通じない」が15.2%、「外国語が通じる病院を利用したいが、どこにあるかわからない」、「医療費が高すぎる」が各13.4%となっている。

問 21 あなたが病気になって病院に行くときに困ったことはありますか（複数回答）

表 21 病院で困った経験

	N	%
とくに困っていることはない	209	52.8%
日本語の書類・案内が理解できない	64	16.2%
医師や看護師と言葉が通じない	60	15.2%
外国語が通じる病院を利用したいが、どこにあるかわからない	53	13.4%
医療費が高すぎる	53	13.4%
休日・夜間に利用できる病院が、どこにあるかわからない	38	9.6%
その他	33	8.3%
無回答	25	6.3%
計	396	100%

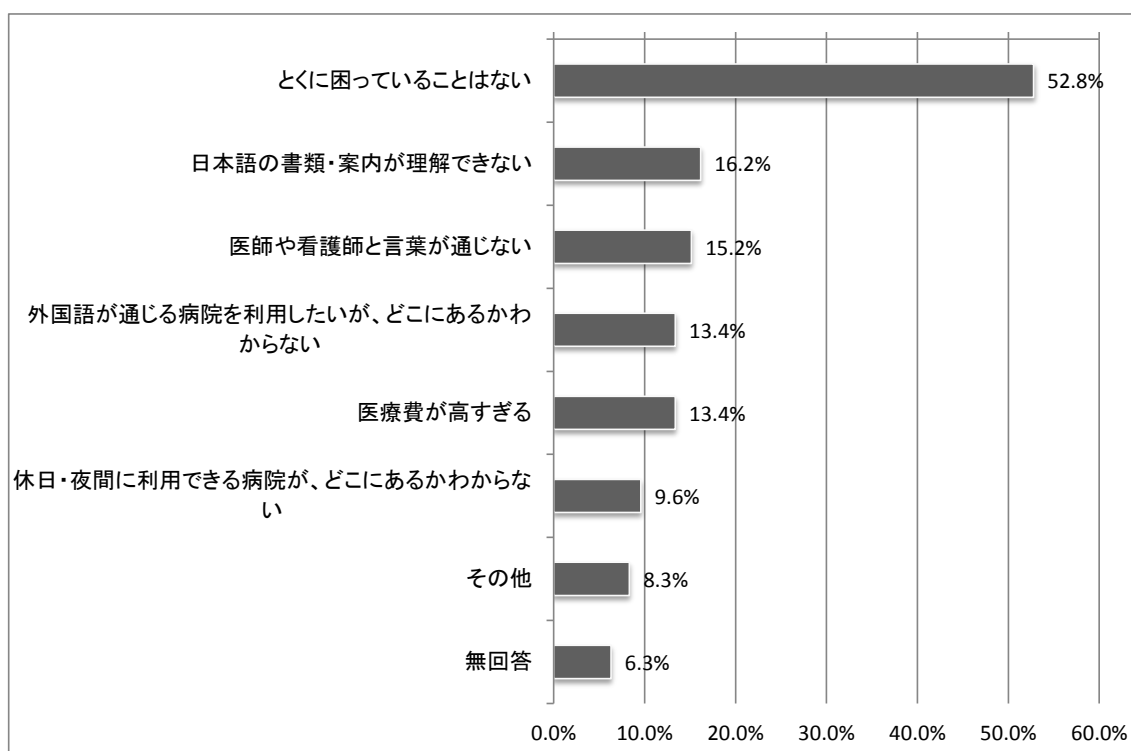


図 21 病院で困った経験

日本語を読む能力および話す・聞く能力と病院での問題との関連を見ると、どちらの能力でも高い人では困っていない割合が60%以上となっている。また、どちらの能力も中程度の人ではおよそ50%が困っていないとしている。読む能力が低い人では49%が言葉が通じない、41%が書類・案内が理解できないとしており、能力のより高い人と比較して割合が高くなっている。

話す・聞く能力では、能力の低い人の40%が言葉が通じない、34%が書類・案内が理解できないとしており、読む能力と同様の傾向の困りごとを抱えていることが窺える。

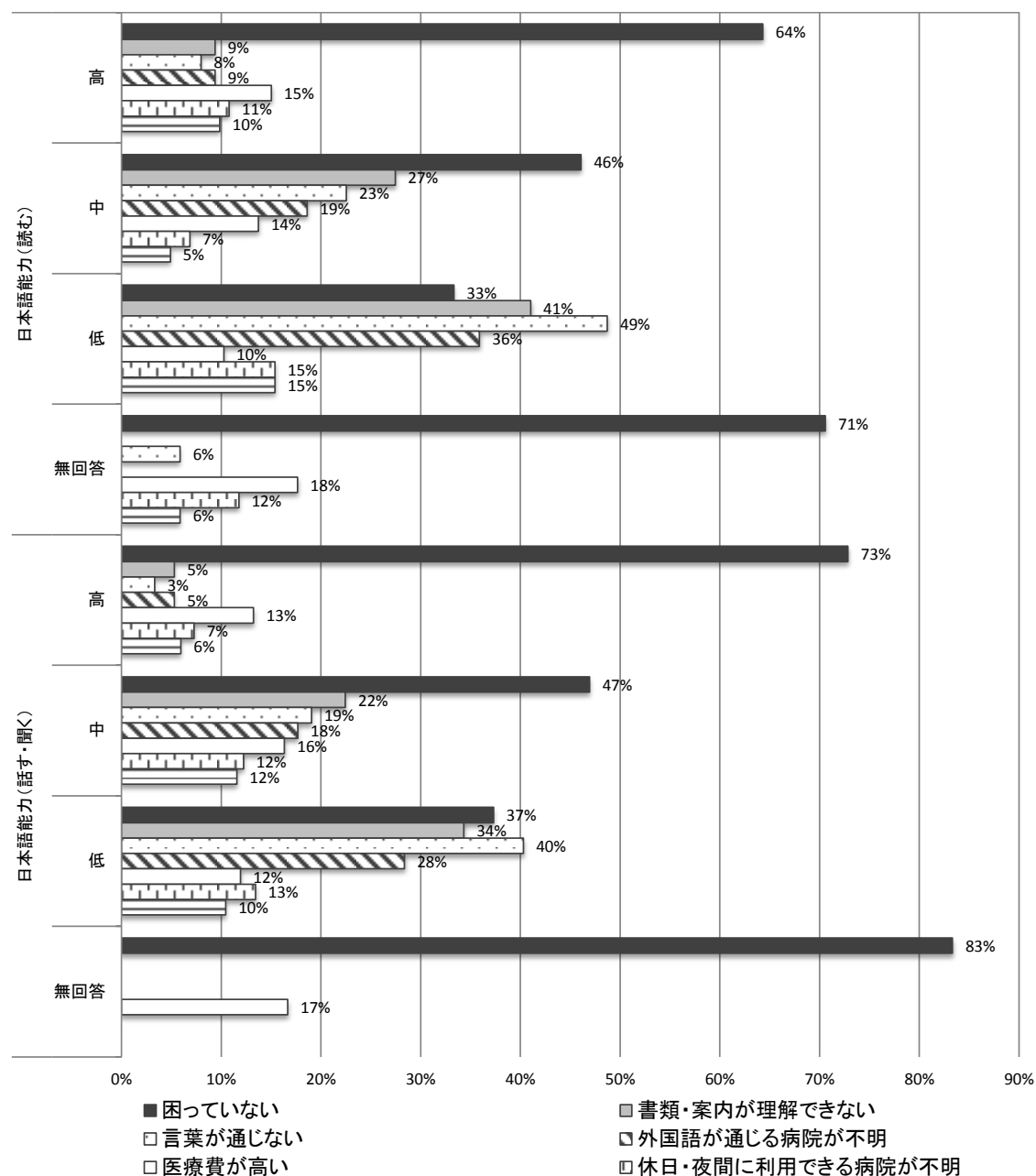


図21-2 日本語能力別病院で困ったことの分布(N=396)

## (22) 病院に求める言語支援

病院に求める言語支援の分布を見ると、「言語支援の必要はない」と回答した人が 41.2%と最も多い一方、「母国語で会話ができるスタッフや医師」が 27.0%、「通訳者」が 24.5%、「母国語のパンフレット」が 23.2%となっている。

問 22 あなたが病気になって病院に行くとき、どのような言語支援があると良いと思いますか（複数回答）

表 22 病院に求める言語支援

	N	%
言語支援の必要はない	163	41.2%
母国語で会話ができるスタッフや医師	107	27.0%
通訳者	97	24.5%
母国語のパンフレット	92	23.2%
その他	34	8.6%
無回答	22	5.6%
計	396	100.0%

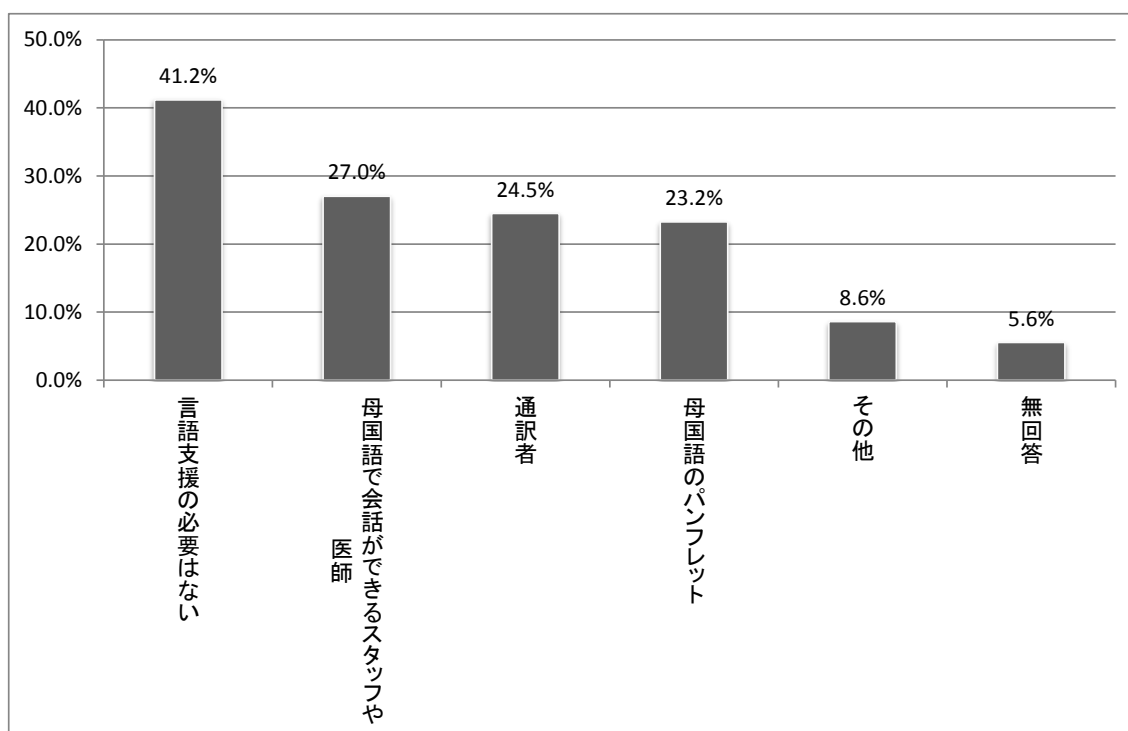


図 22 病院に求める言語支援



## 7 育児・教育

### (23) 18歳未満の子どもの有無・年齢

18歳未満の子どもの有無の分布を見ると、18歳未満の子どもがいない人が59.1%、18歳未満の子どもがいる人が32.6%となっている。子どもの人数は、1人が58.1%、2人が32.6%、3人が6.2%となっている。

問23 あなたには現在、18歳未満のお子さんがいますか

表23 18歳未満の子どもの有無

	N	%	人数内訳
いない	234	59.1%	
いる	129	32.6%	
1人	75	18.9%	58.1%
2人	42	10.6%	32.6%
3人	8	2.0%	6.2%
無回答	4	1.0%	3.1%
無回答	33	8.3%	
計	396	100%	

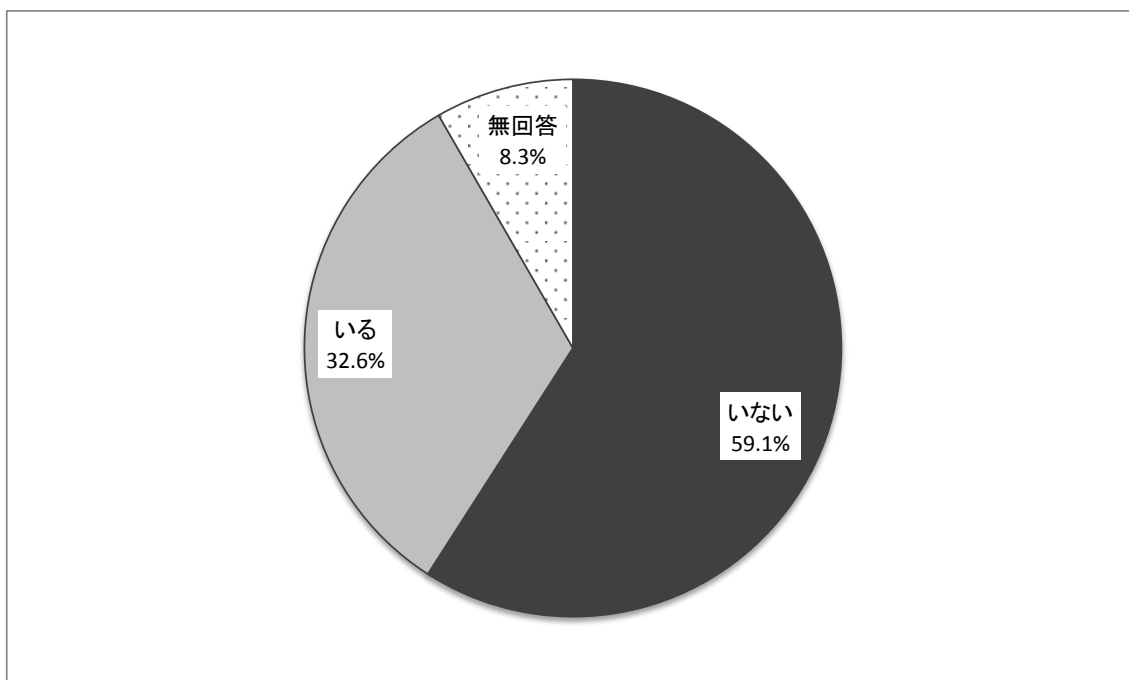


図23 18歳未満の子どもの有無

居住地域別に18歳未満の子どもの有無の分布を見ると、仙台市、仙台地域、登米地域、気仙沼地域では60%以上が18歳未満の子どもがいないとなっている。これに対して石巻地域では50%が18歳未満の子どもがいるとしている。また、栗原地域と石巻地域では複数の子どもがいる割合が20%以上となっている。

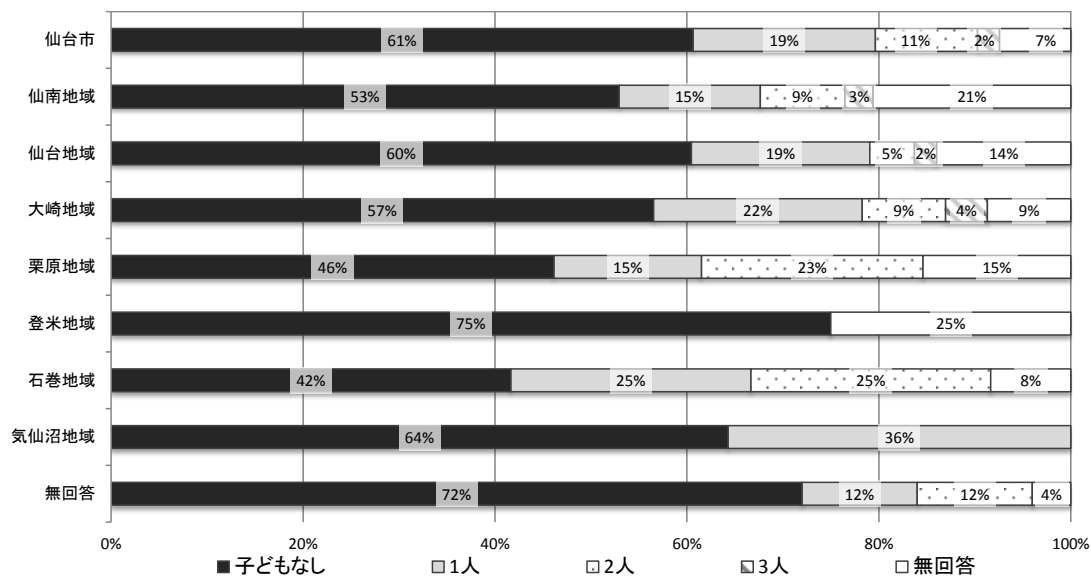


図23-2 居住地域別子どもの有無の分布(N=396)

国籍別に18歳未満の子どもの有無の分布を見ると、ベトナム籍、インドネシア籍、米国籍ではおよそ70%以上が18歳未満の子どもがいないと回答している。対して、フィリピン籍では45%、中国籍では37%が18歳未満の子どもがいるとしている。また、複数の子どもがいる割合は中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、ベトナム籍、米国籍で10%以上となっている。

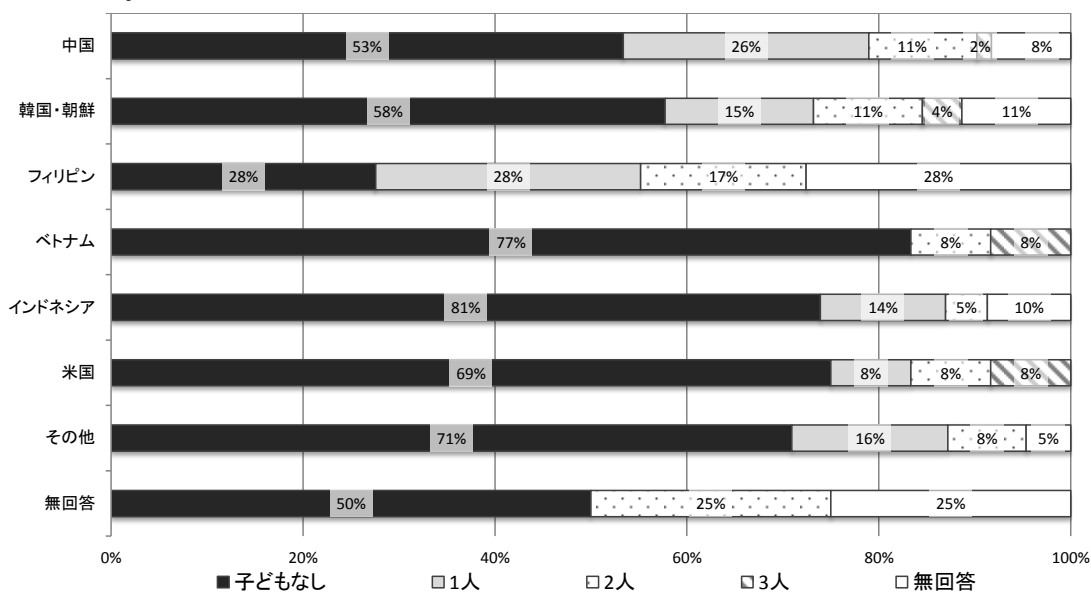


図23-3 国籍別子どもの有無の分布(N=396)

18歳未満の子どもがいる回答者に限定して、子どもが第2世代（日本生まれ）か第1.5世代（日本に移住）かの割合を見ると、18歳未満の子どもがすべて日本生まれである割合が66.7%と多数を占めた。すべて移住した割合は17.1%、移住した子どもと日本生まれの子どもの両方がいる割合は3.9%となっている。

表 23-2 子どもの世代構成

	N	%
すべて1.5世代	22	17.1%
すべて2世代	86	66.7%
1.5世代と2世代	5	3.9%
世代無回答	16	12.4%
計	129	100.0%

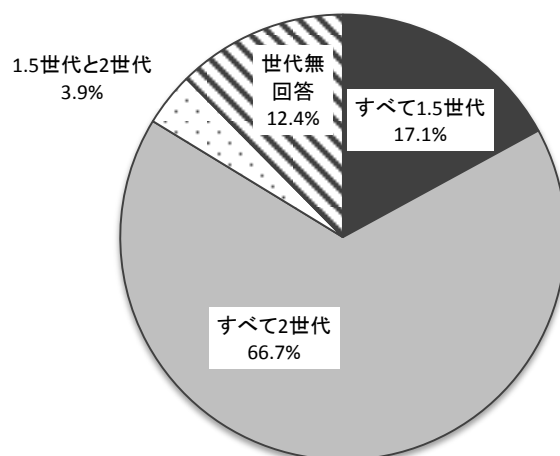


図23-4 子どもの世代構成 (N=129)

居住地域別に子どもの世代構成の分布を見ると、18歳未満の子どもがすべて移住した割合は大崎地域で33%、仙台市、栗原地域で20%以上となっている。18歳未満の子どもがすべて日本生まれである割合は石巻地域、気仙沼地域では80%を超えている。移住した子どもと日本生まれの子どもの両方がいる割合は仙南地域で10%となっているものの、他の地域では10%未満となっている

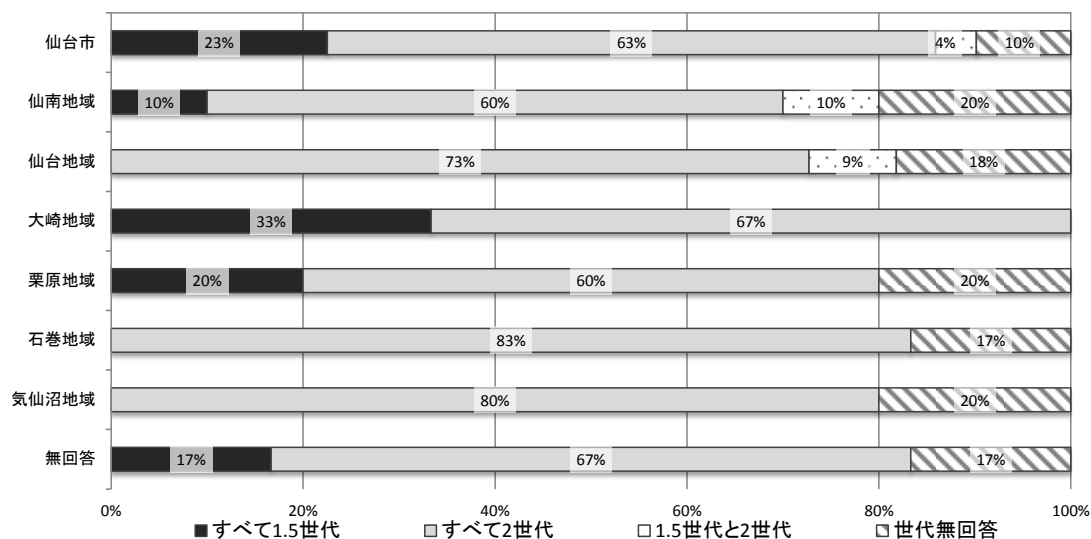


図23-5 居住地域別子どもの世代構成の分布(N=129)

国籍別に見ると、18歳未満の子どもがすべて移住した割合はベトナム籍で50%に上るほか、米国籍で33%、韓国・朝鮮籍で26%となっている。18歳未満の子どもがすべて日本生まれである割合はインドネシア籍で100%となり、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍で70%を超えている。

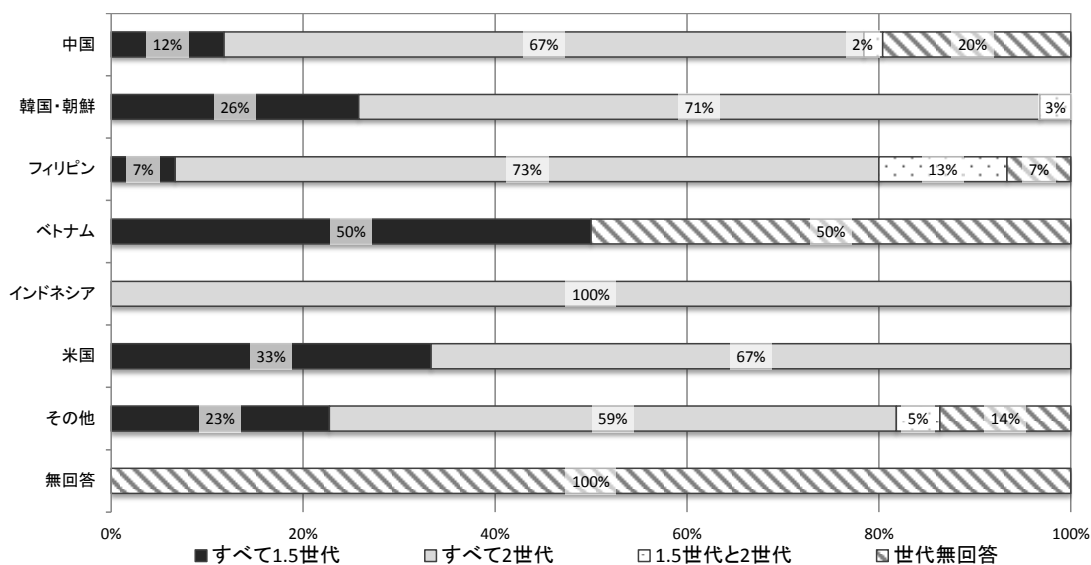


図23-6 国籍別子どもの世代構成の分布(N=129)

## (24) 子どもと会話する言語

### ① 日本で生まれた子ども

日本生まれの子どもとの会話で使用する言語は、「日本語だけ」の割合が29.9%と最も多く、次いで、「主に日本語」が25.2%、「日本語と母国語が同じくらい」が15.9%となっている。

問 24 あなたがご家庭でお子さんと会話するときに使う言語は以下のうちどれですか

表 24-1 使用言語（日本で生まれた子どもがいる場合）

	N	%
日本語だけ	32	29.9%
主に日本語	27	25.2%
日本語と母国語が同じくらい	17	15.9%
主に母国語	15	14.0%
その他	7	6.5%
無回答	9	8.4%
計	107	100%

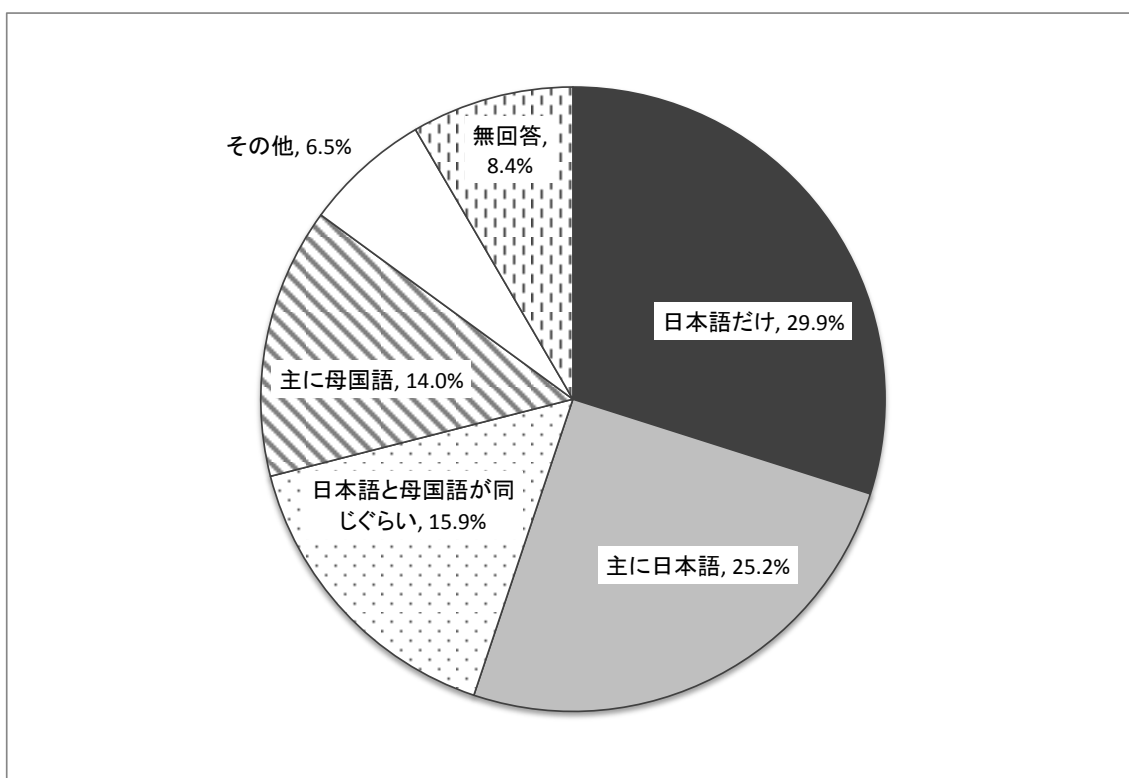


図 24-1 使用言語（日本で生まれた子どもがいる場合）

国籍別に日本生まれの子どもと会話での使用言語の分布を見ると、中国籍、韓国・朝鮮籍、ベトナム籍、米国籍では日本語だけ、主に日本語と回答した割合が50%を超えており、中でも韓国・朝鮮籍ではおよそ90%となっている。また、日本語と母国語が同じぐらい使用するのはベトナム籍と米国籍で20%以上となっているほか、主に母国語を使用するのはインドネシア籍では50%を占めている。

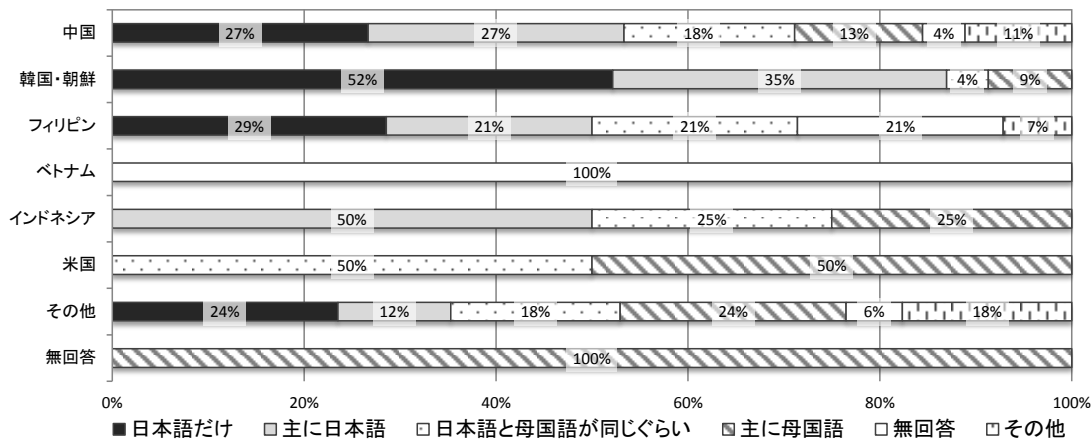


図24-2 国籍別使用言語の分布(日本生まれ)(N=107)

② 移住してきた子ども

表 24-2 使用言語 (日本に移住してきた子どもがいる場合)

	N	%
日本語だけ	2	4.7%
主に日本語	2	4.7%
日本語と母国語が同じぐらい	6	14.0%
主に母国語	17	39.5%
その他	3	7.0%
無回答	13	30.2%
計	43	100.0%

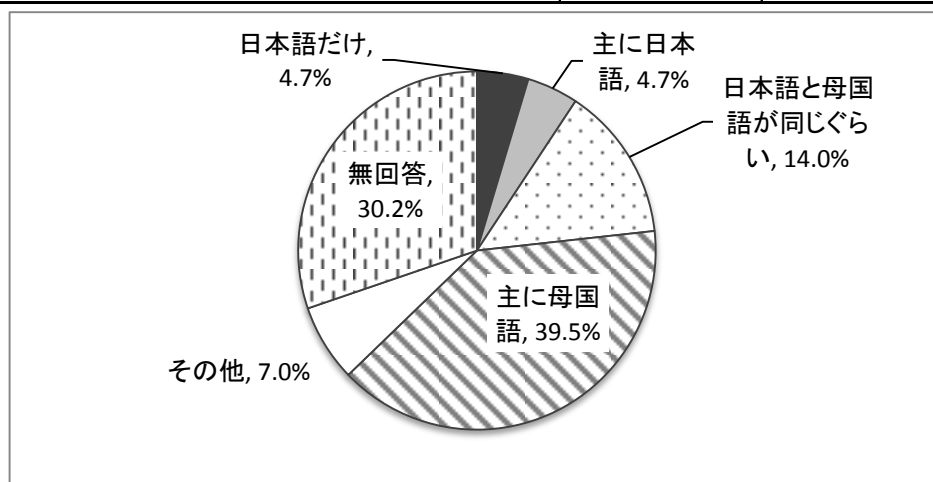


図 24-3 使用言語 (日本に移住してきた子どもがいる場合)

## (25) 育児で困っていること

子育てで困っていることの分布を見ると、「とくにない」を選んだ人が 48.1%と最も多い。悩みがある人の中では、「子育てについて日本人の家族と意見が合わない」が 18.6%と最も多く、次いで、「子育てに関する悩みを相談できる相手がいない」が 17.8%、「同じように子育てをしている人と知り合う機会がない」が 15.5%、「子育てに関する情報が日本語なのでわかりにくい」および「保健師や保育士などとコミュニケーションがとれない」が各 8.5%となっている。

問 25 育児について、以下のようなことで困っていることはありますか（複数回答）

表 25 育児で困っていること

	N	%
子育てに関する悩みを相談できる相手がいない	23	17.8%
同じように子育てをしている人と知り合う機会がない	20	15.5%
子育てに関する情報が日本語なのでわかりにくい	11	8.5%
子育てについて日本人の家族と意見が合わない	24	18.6%
保健師や保育士などとコミュニケーションがとれない	11	8.5%
その他	6	4.7%
とくにない	62	48.1%
無回答	12	9.3%
計	129	100%

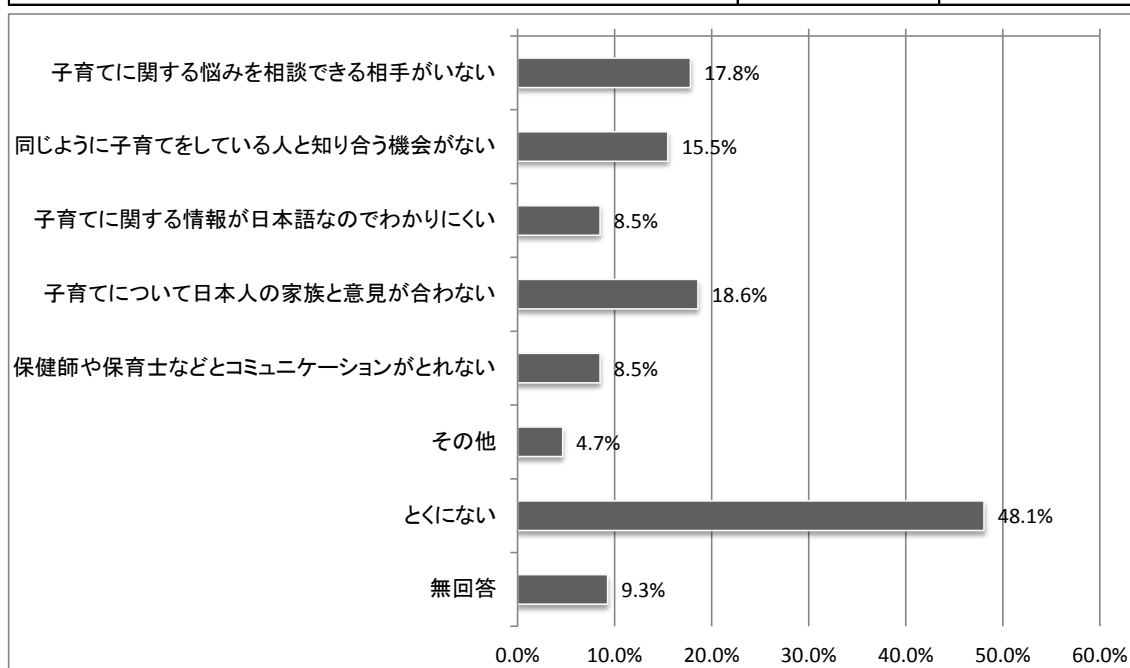


図 25 育児で困っていること

日本の居住年数別に子育ての悩みの分布を見ると、1年未満では情報がわかりにくいのが80%を占め最も割合が高い。保健師・保育士とコミュニケーションも40%となっている。また、とくにないの回答はなく何らかの悩みを抱えていることが窺える。5年未満では保健師・保育士とコミュニケーションととくにないが同数の38%となっている。とくにないは居住年数が長くなるにつれ割合が高まり、20年以上では69%となっている。

日本語を話す・聞く能力別に子育ての悩みの分布を見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人ではとくにないが62%を占めているが、日本語を話す・聞く能力が低い人では保健師・保育士とコミュニケーション、情報がわかりにくいがおよそ30%を占めている。

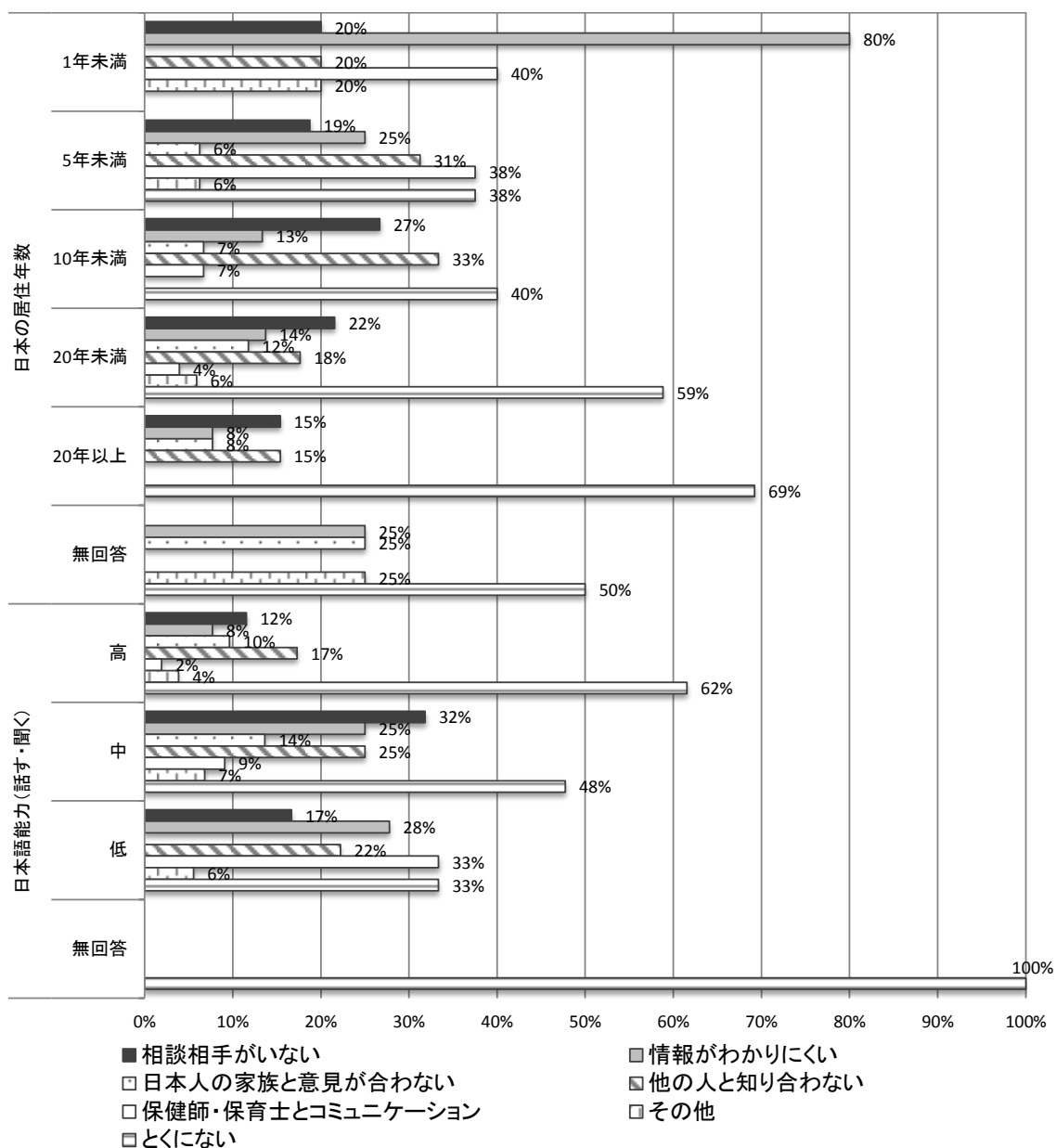


図25-2 日本居住年数・日本語能力(話す・聞く)別子育ての悩みの分布(N=117、問25に無回答の回答者を除いた割合)



家族形態別に子育ての悩みの分布を見ると、配偶者のみ同居している核家族、配偶者や父母、祖父母など同居していないひとり親ではおよそ60%がとくにないとしている。配偶者や父母、祖父母など同居している拡大家族ではとくにないの割合は36%となっている。日本人との付き合い別では、なんでも話せる人がいるでは70%がとくにないとしているが、あいさつをする人がいるではとくにないは11%となり、他の人と知り合わないが67%、相談相手がいないが56%となっている。

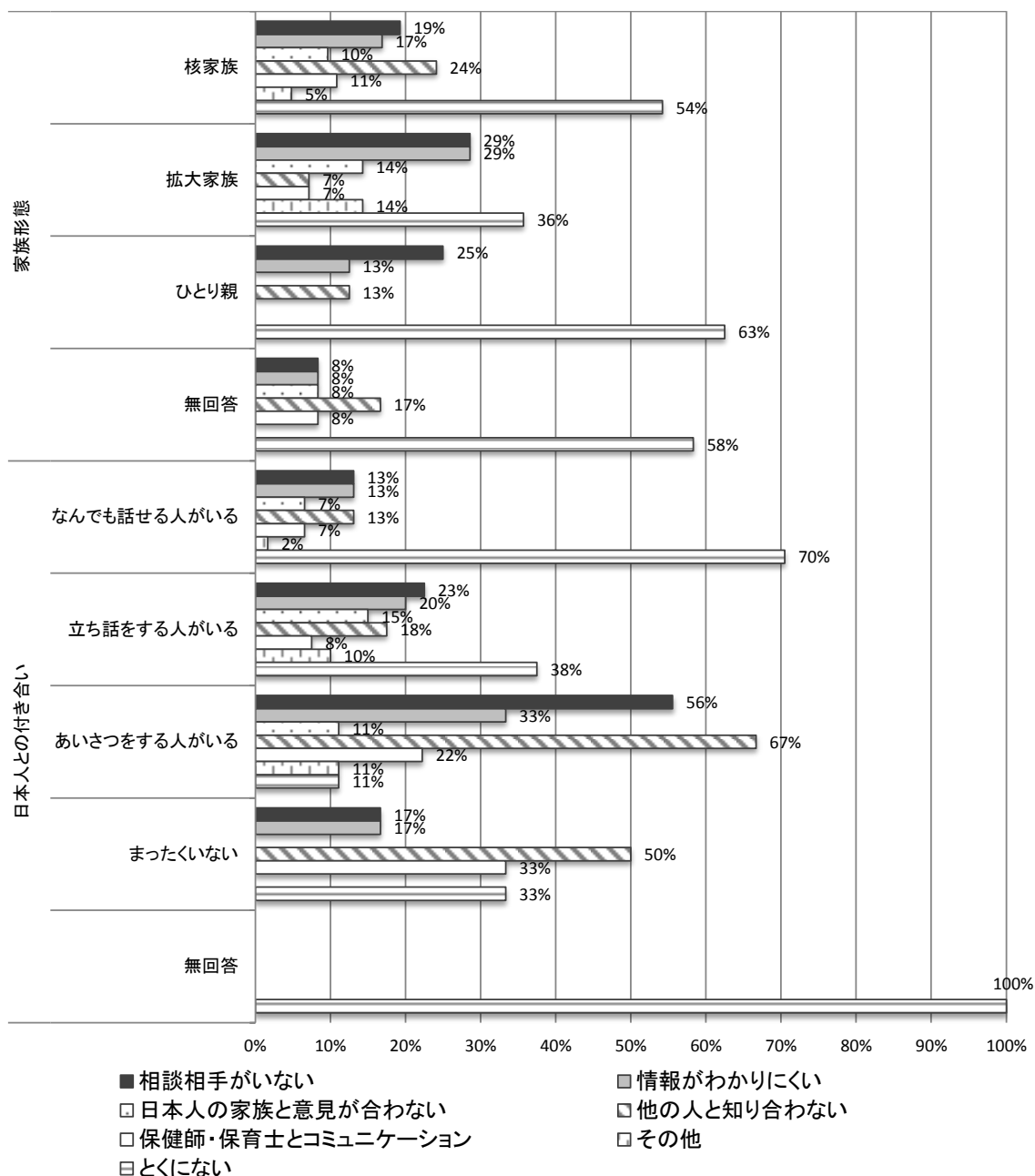


図25-3 家族形態・日本人との付き合い別子育ての悩みの分布(N=117、問25に無回答の回答者を除いた割合)

## (26) 子育て支援制度の利用経験

子育て支援制度の利用経験の分布を見ると、母子手帳が最も利用されており、18歳未満の子どもがいる回答者の76.7%が経験がある。次いで、妊産婦・新生児訪問指導が72.1%、乳幼児への予防接種が68.2%、乳幼児の健康診査、検査が56.6%となっている。

問26 以下のような子育て支援制度を利用したことはありますか（複数回答）

表26 子育て支援制度の利用経験

	N	%
母子健康手帳	99	76.7%
児童手当	42	32.6%
乳幼児への予防接種	88	68.2%
乳幼児の健康診査、検査	73	56.6%
妊産婦・新生児訪問指導	93	72.1%
児童扶養手当	27	20.9%
放課後児童クラブ	17	13.2%
子育てに関する各種電話相談	3	2.3%
無回答	19	14.7%
計	129	100%

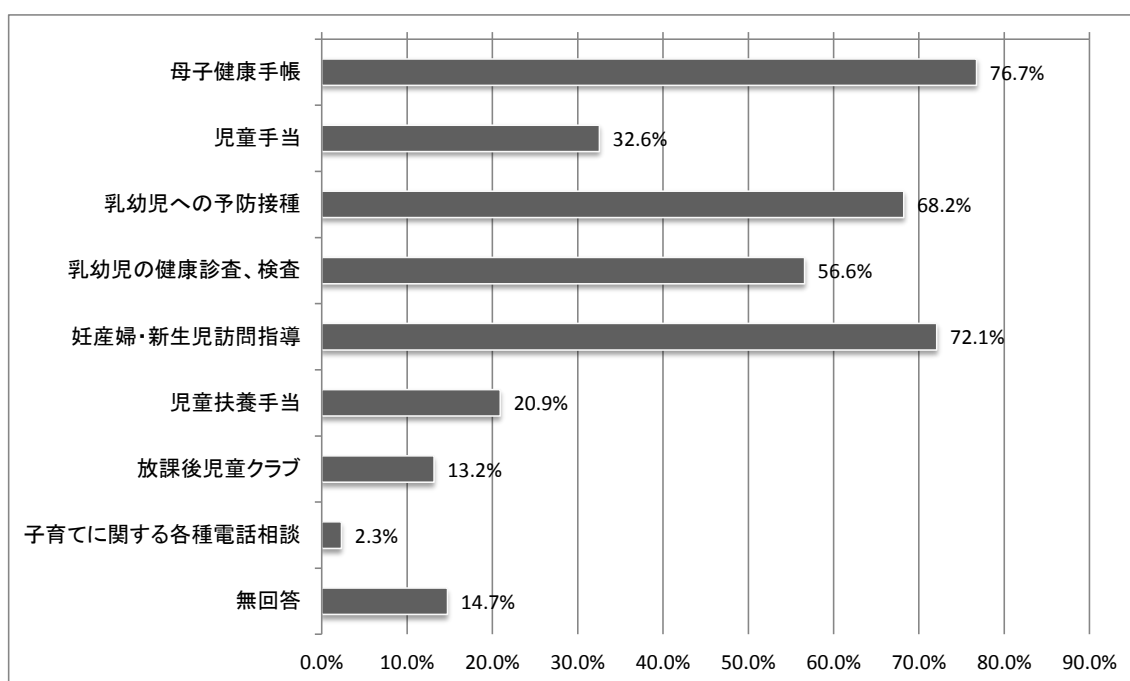


図26 子育て支援制度の利用経験

## (27) 教育で困っていること

教育で困っていることの分布を見ると、「とくにない」と答える割合が41.1%と最も高い。次いで、「進路、進学について不安がある」が21.7%、「いろいろな費用が高い」が14.0%、「言葉の違いなどから、保護者と学校との意思疎通がうまく行かない」が7.0%となっている。

問 27 教育について、以下のようなことで困っていることはありますか

表 27 教育で困っていること

	N	%
進路、進学について不安がある	28	21.7%
色々な費用が高い	18	14.0%
言葉の違いなどから、保護者と学校との意思疎通がうまく行かない	9	7.0%
子どもが外国人であることで差別を受けていると感じる	8	6.2%
子どもが日本語がうまくできないので授業が理解しにくい	6	4.7%
子どもが学校になじまない	3	2.3%
保育所が近くにない	0	0.0%
その他	11	8.5%
とくにない	53	41.1%
無回答	18	14.0%
計	129	100%

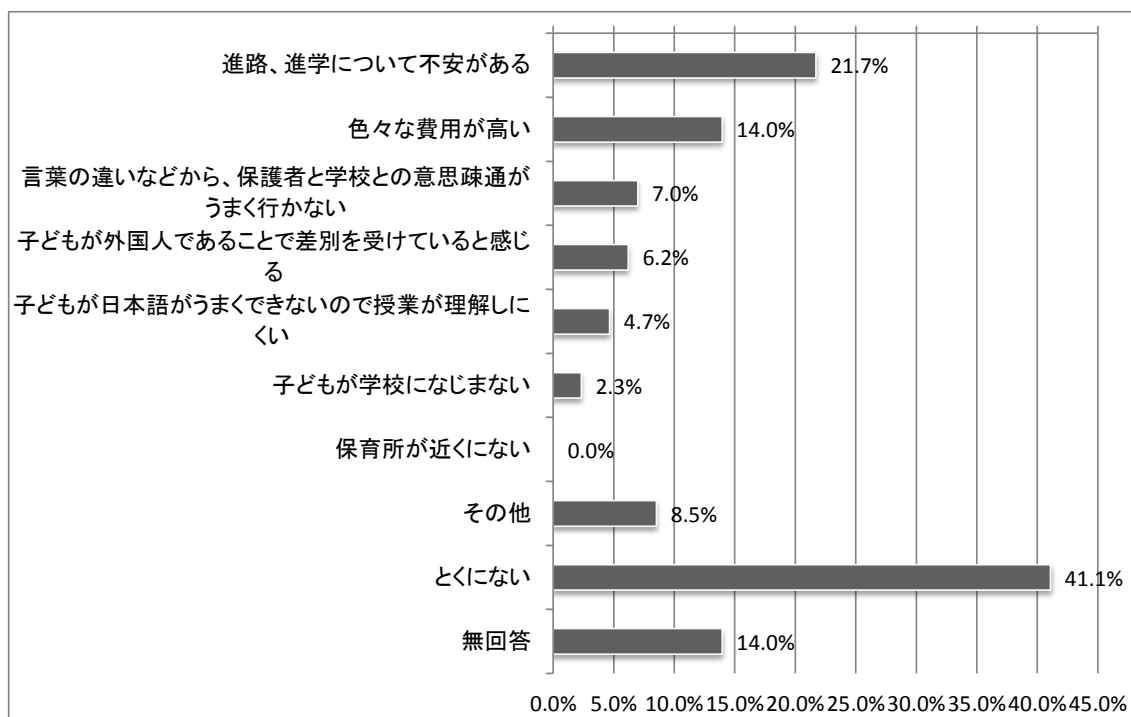


図 27 教育で困っていること

日本語の話す・聞く能力別に教育で困っていることの分布を見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人ではとくにないが60%を占めた。また日本語を話す・聞く能力が低い人でもとくにないは50%となった。日本語を話す・聞く能力が中程度の人では進路、進学が不安が43%と高い割合になっている。

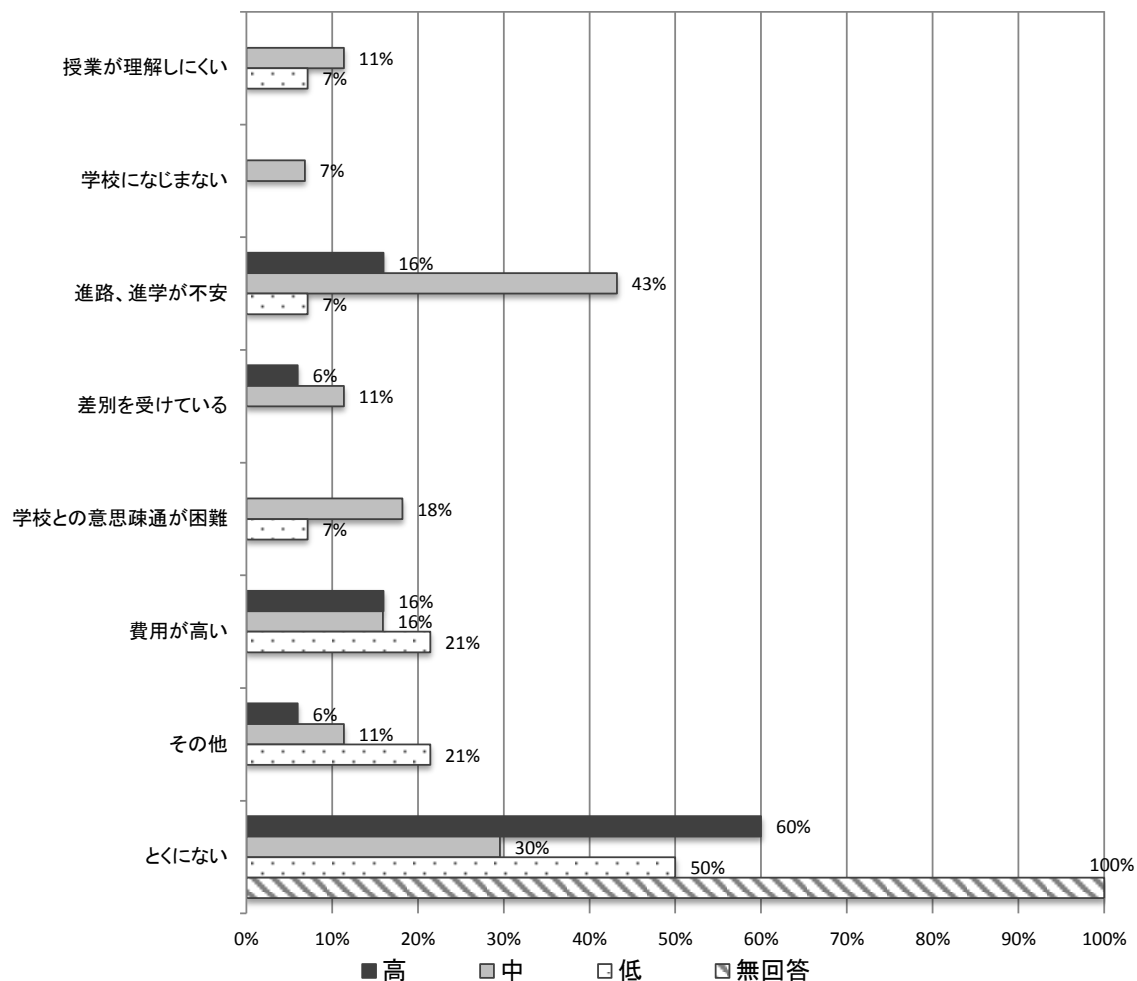


図27-2 日本語能力(話す・聞く)別教育で困っていることの分布(N=111、問27に無回答の回答者を除いた割合)

家族形態別に教育で困っていることの分布を見ると、拡大家族では67%がとくにないとしているものの、核家族では48%、ひとり親では38%と割合が低下する。また、進路、進学が不安と回答したのはひとり親では50%となり割合が高い。また、費用が高いの38%はひとり親となっている。

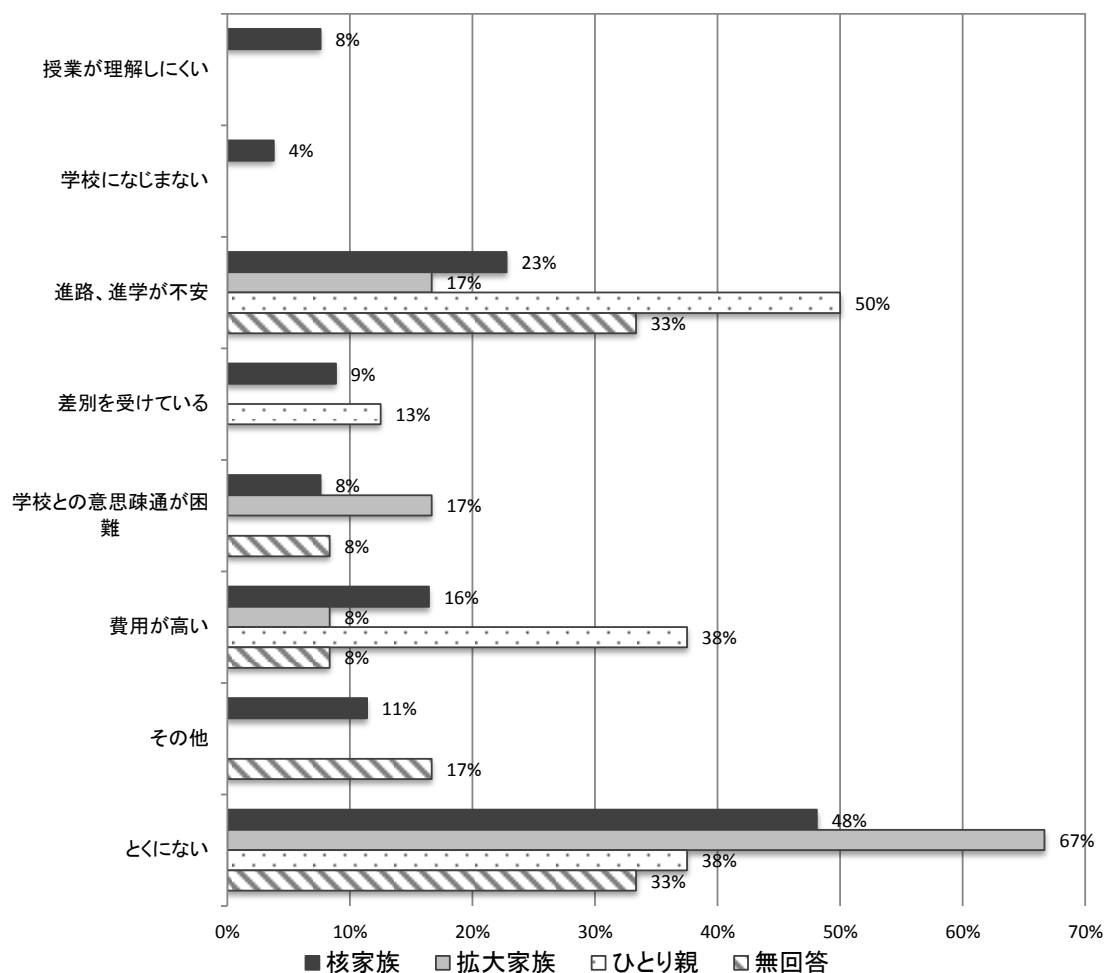


図27-3 家族形態別教育で困っていることの分布(N=111、問27に無回答の回答者を除いた割合)

日本人との付き合い別に教育で困っていることの分布を見ると、なんでも話せる人がいるではとくにないが67%を占めるなど高い割合となったのに対し、立ち話をする人がいるでは30%、あいさつをする人がいる・まったくいないでは8%と割合が低下する。授業が理解しにくいではあいさつをする人がいる・まったくいないで23%となっており、進路、進学が不安では立ち話をする人がいる、あいさつをする人がいる・まったくいないが38%と割合が高い。また、あいさつをする人がいる・まったくいないでは差別を受けているでも31%と他に比べて割合が高くなっている。

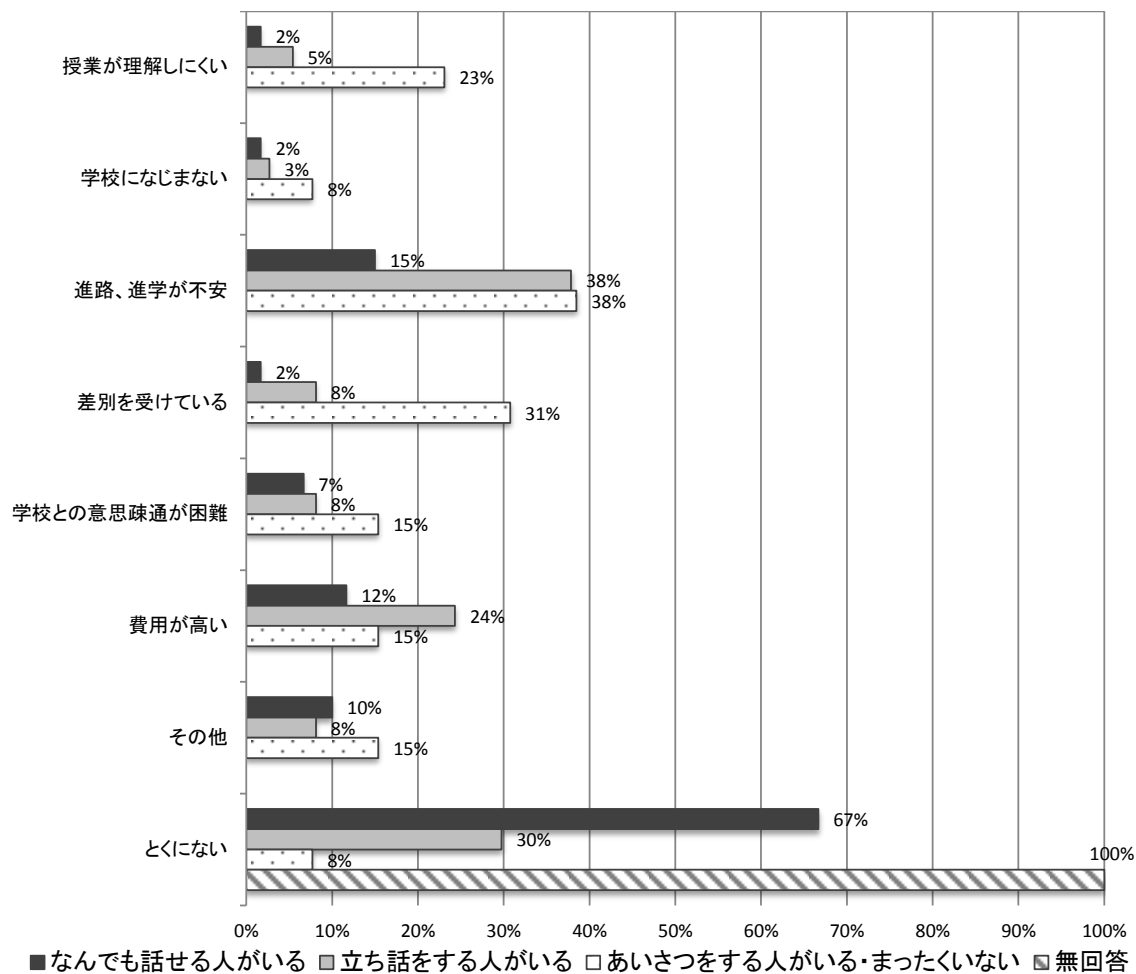


図27-4 日本人との付き合い別教育で困っていることの分布(N=111、問27に無回答の回答者を除いた割合)

## (28) 日本語教育のサポート制度の利用経験

日本語教育のサポート制度の利用経験を見ると、無回答者を除き「日本語教室」、「学校へのボランティア派遣制度」、「その他のサポート」のいずれも「知らない」と回答する人の割合が最も多く、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計を大きく上回っている。「利用したことがある」割合はいずれも5%となっている。

問 28 あなたのお子さんは、学校で、以下のような制度を利用したことはありますか

表 28 日本語教育のサポート制度の利用経験

	日本語教室		学校へのボランティア派遣制度		その他のサポート	
	N	%	N	%	N	%
利用したことがある	5	3.9%	6	4.7%	1	0.8%
知っているが、利用したことはない	25	19.4%	16	12.4%	13	10.1%
知らない	42	32.6%	50	38.8%	55	42.6%
無回答	57	44.2%	57	44.2%	60	46.5%
計	129	100%	129	100%	129	100%

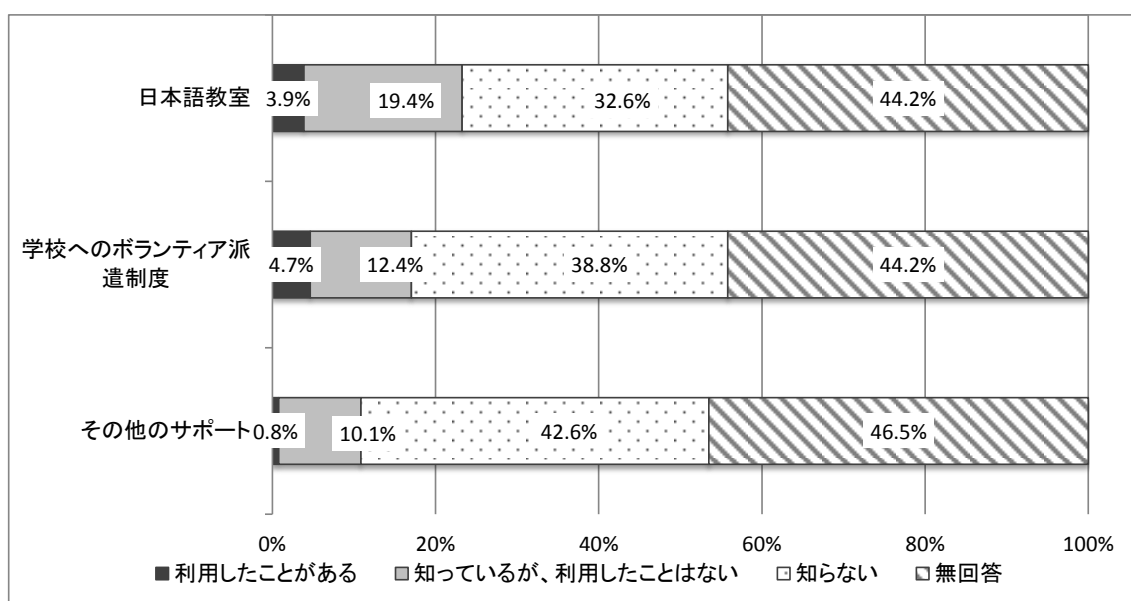


図 28 日本語教育のサポート制度の利用経験

## (29) 母国語・母国文化の教育

母国語・母国文化教育に対する意向を見ると、「現在は受けさせていないが、今後は受けさせたいと思う」と答える割合が37.2%と最も多く、次いで、「現在受けさせており、今後も受けさせたいと思う」が24.0%、「わからない」が17.8%、「現在受けさせておらず、今後も受けさせたいとは思わない」が6.2%となっている。

問 29 あなたはお子さんに母国語や文化についての教育を受けさせたいと思いますか

表 29 母国語・母国文化の教育

	N	%
現在受けさせており、今後も受けさせたいと思う	31	24.0%
現在は受けさせていないが、今後は受けさせたいと思う	48	37.2%
現在受けさせているが、今後は受けさせたいとは思わない	0	0.0%
現在受けさせておらず、今後も受けさせたいとは思わない	8	6.2%
わからない	23	17.8%
無回答	19	14.7%
計	129	100%

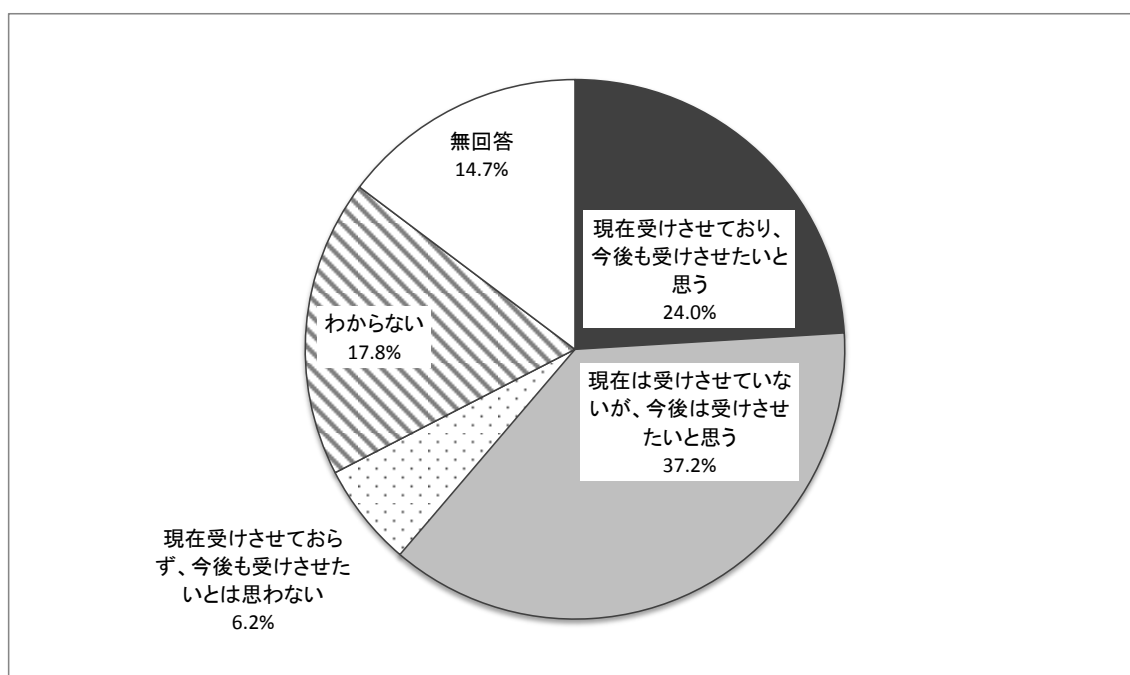


図 29 母国語・母国文化の教育



国籍別に母国語・母国文化教育の意向の分布を見ると、ベトナム籍では50%が現在受けさせているとしており、韓国・朝鮮籍では68%が現在受けさせていないが、今後は受けさせたいと回答した。フィリピン籍では現在受けさせておらず、今後も受けさせたいと思わないと13%が回答している。また、フィリピン籍、インドネシア籍ではおよそ50%近くがわからないとしており他の国籍と比べ割合が高い。

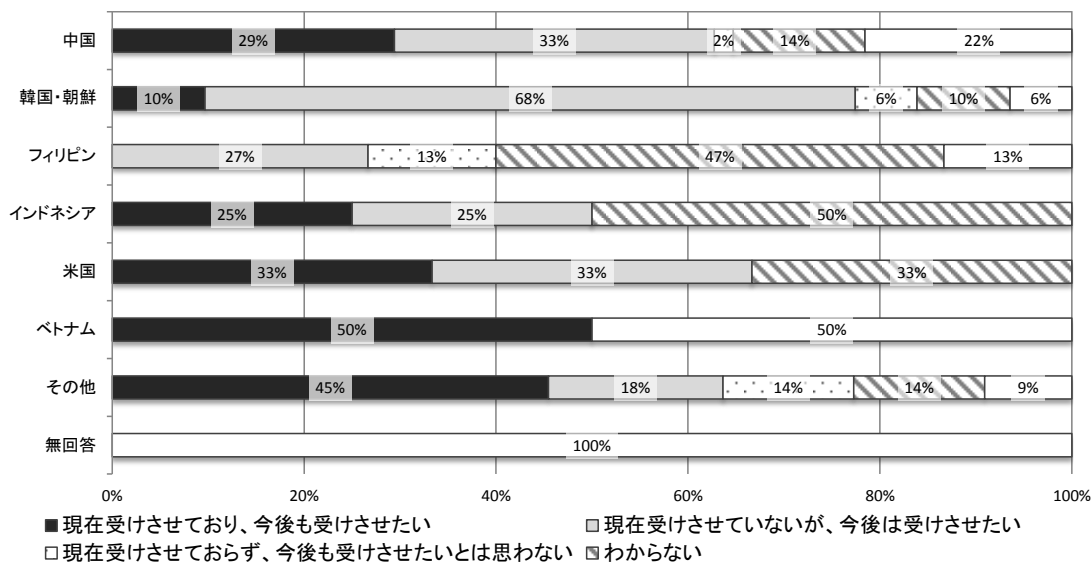


図29-2 国籍別母国語・母国文化教育の意向(N=129)

在留資格別に母国語・母国文化教育の意向の分布を見ると、現在受けさせている割合は定住者が最も高く40%となった。現在受けさせていないが、今後は受けさせたいは永住者、特別永住者、定住者で40%を超えた。一方、現在受けさせておらず、今後も受けさせたいと思わないは特別永住者、日本人の配偶者で20%を超えている。

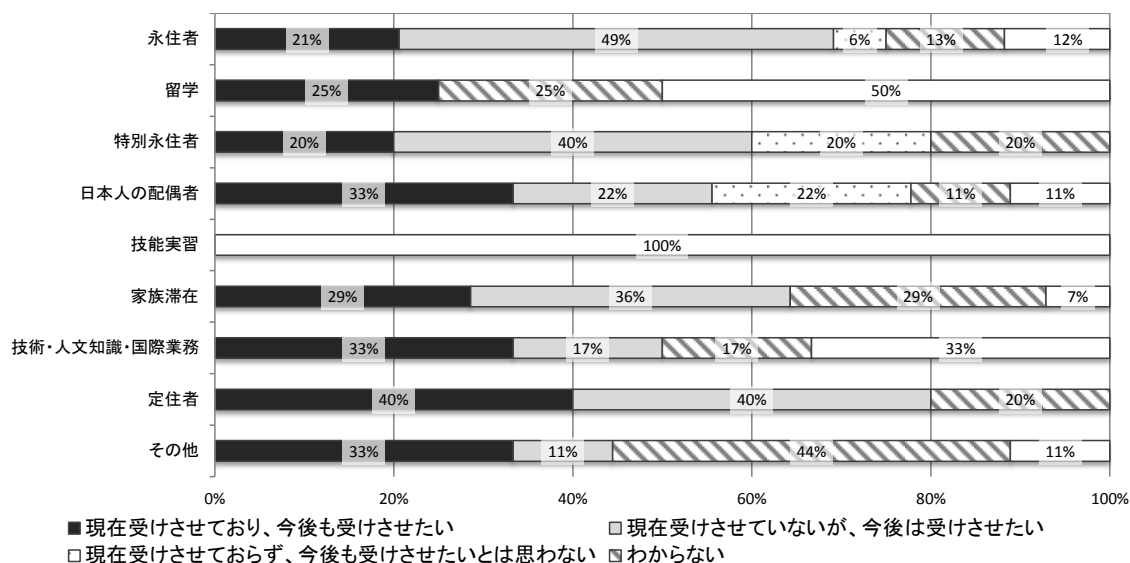


図29-3 在留資格別母国語・母国文化教育の意向(N=129)

### (30) 母国語・母国文化の教育をしていない理由

母国語・母国文化教育をしていない理由として、44.6%が「母国語や文化を教えてくれる場所がない・知らない」をあげており、次いで「子供が関心をもっていない」が37.5%、「日本での勉強の妨げになる」が10.7%、「日本語や日本文化を身につける妨げになる」が10.7%となっている。

問 30 現在受けさせていない、あるいは今後受けさせたいとは思わない理由は  
何ですか（複数回答）

表 30 母国語・母国文化の教育をしていない理由

	N	%
母国語や文化を教えてくれる場所がない・知らない	25	44.6%
子どもが関心をもっていない	21	37.5%
日本での勉強の妨げになる	6	10.7%
日本語や日本文化を身につける妨げになる	2	3.6%
母国語や文化を学ぶ必要はない	1	1.8%
その他	11	19.6%
無回答	3	5.4%
計	56	100%

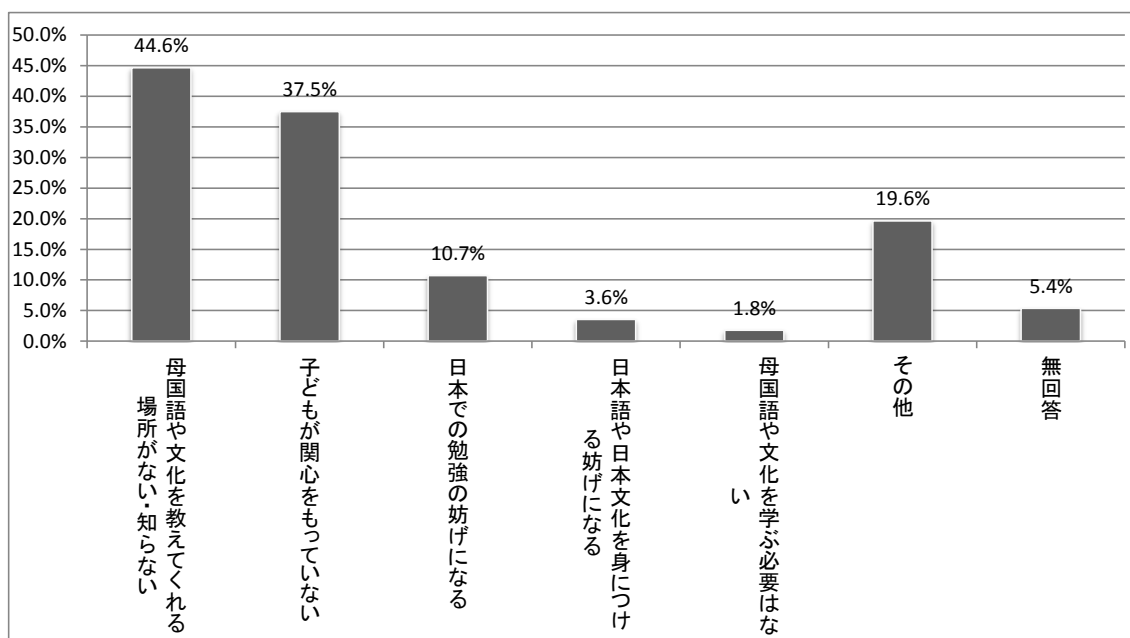


図 30 母国語・母国文化の教育をしていない理由